

2024年度
[2024年4月1日～2025年3月31日]

事業報告

目 次

2024年度事業報告（総括）	1
Ⅰ. 科学技術振興に関する活動の概要	3
Ⅰ－1. 研究助成	3
1. 募集・応募・選出状況	3
2. 交流会と贈呈式	3
3. 第40回(2024年度)マツダ研究助成一覧	4
4. 第40回(2024年度)マツダ研究助成奨励賞一覧	8
Ⅰ－2. 事業助成	9
1. 募集・応募・選出状況	9
2. 第40回(2024年度)マツダ事業助成一覧	10
Ⅰ－3. 科学わくわくプロジェクト	12
Ⅰ－4. サイエンスサロン	13
Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要	14
Ⅱ－1. 研究助成	14
1. 募集・応募・選出	14
2. オンライン交流会と贈呈式	14
3. 成果報告会	14
4. 第40回(2024年度)マツダ研究助成一覧	15
Ⅱ－2. 市民活動支援	16
1. 募集・応募・選出状況	16
2. 贈呈式	16
3. フォローアップ	16
4. 第40回(2024年度)マツダ市民活動支援一覧	17
Ⅱ－3. 感動塾・みちくさ	18
Ⅱ－4. スタートラインプロジェクト	19
Ⅱ－5. 若者×ツナグバ	20
Ⅱ－6. 第41回講演会	21
Ⅱ－7. 大学寄付講義の実施概要	22
Ⅲ. 管理事項の概要	23
Ⅰ. 役員等に関する事項	23
1. 2025年3月31日現在の役員・評議員の名簿	23
2. 役員等の異動状況	23
Ⅱ. 職員に関する事項	23
Ⅲ. 理事会・評議員会等、主な活動事項	24
Ⅳ. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	25
Ⅴ. 登記に関する事項	25
Ⅵ. 附属明細書	25

2024年度 事業報告（総括）

2024年度は、設立趣旨である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」の2本柱について、「つなぐ」を方針として、11の事業に精力的に取り組んで参りました。メイン事業である、研究助成、市民活動支援に対し、オンライン交流会やセミナーなど、つなぐ活動を強化しつつ、2024年度は、昨今、減少傾向を懸念されている研究者の増強に対する取り組みに着手致しました。その第一歩として、2本柱それぞれの事業において、各事業の役割を明確化し、一気通貫で取り組める体制にしております。

科学技術振興分野では、科学わくわくプロジェクトで「科学する心」を醸成し、科学体験事業で「科学する力」の支援を行い、科学への誘いでアカデミアやエンジニアの道を目指すきっかけを与え、サイエンスサロンで彼らの夢を叶えるサポーターの賛同を得て、研究助成で彼らの研究を支援するという役割のもと5つの事業に取り組みました。

青少年健全育成分野では、感動塾・みちくさで「科学への興味」と「仲間の大切さ」に気づききっかけを与え、大学寄付講義でリーダーに必要なスキルと知識を身に着け、若ツナで身に着けたスキルや知識の実戦経験を積むことで市民活動や青少年の健全育成研究に進む人材を育て、市民活動支援と研究助成で彼らの活動や研究を支援するという役割のもと5つの事業に取り組みました。

そして、講演会では、財団事業に関わっていないすべての皆様に対して、科学技術振興や青少年健全育成に向けての気付きや啓発の場を提供致しました。具体的には、著名な講師と高校生の質疑応答時間をしっかりとることで、質問した高校生たち、それを聞いていた若者たちの将来や夢に対する一助として頂くだけでなく、高校生たちの保護者や周りの大人たちが、彼ら・彼女らの夢を支援する強力なサポーターとなって頂くことを期待しております。

このような活動を通して、「マツダ財団は、研究や活動に対する支援に留まらず、人と人をつなぐことで、人材育成にも熱心に取り組まれている」という声が出てくるように取り組んで参ります。

科学技術振興関係

① 研究助成（国内／公募）

機械、電子・情報、化学系材料、物理系材料の4分野を対象に30件3,000万円の助成を行いました。さらに、このうち特に優れた研究4件に「マツダ研究助成奨励賞」として副賞50万円、計200万円を追加助成しました。また、高校生と研究者を繋ぐ交流会を初めて開催しました。

② 事業助成（中国地方／公募）

研究者等による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に22件200万円の助成を行いました。

③ 科学わくわくプロジェクト（広島県、連携事業／参加者公募）

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指し「サイエンスレクチャー」「専門家による科学教室」、教員支援として「小学校理科ひろば」を開催しました。

④ 先進サイエンスサロン（広島県、連携事業／参加者公募）

身近なテーマについて話し合うことを通して地域の方との交流を深めることを目的とした市民参加型の公開講座を開催しました。科学を目指す若者の保護者を強力なサポーターになっていただくことも目的としています。

青少年健全育成関係

① 研究助成（国内／公募）

青少年健全育成に係る教育現場及び市民活動の活性化に役立つ汎用性の高い研究5件に計400万円の助成をしました。

② 市民活動支援（広島県・山口県／公募）

青少年の心豊かな成長に繋がる民間の非営利活動29件に計800万円の支援をしました。

③ 感動塾・みちくさ（広島県、連携事業／参加者公募）

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、(公財)広島市文化財団との共催で2施設で2泊3日の体験宿泊学習を実施しました。

④ スタートラインプロジェクト（広島県、連携事業／公募）

被虐待児等の自立を支援することを目的に、NPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実を支援する事業を実施しました。当事業は、支援者、賛同者の輪も広がり同センター自体が組織として大きな成長を遂げてきたことから、本今年度をもって終了することとなりました。

⑤ **若者×ツナグバ** (広島県・山口県／公募)

若者が社会に希望を持ち自立していくことを目指し、地域社会に貢献する若者の非営利活動を支援しました。

⑥ **講演会の開催** (広島県)

第41回講演会として、本年度は講師に旭化成株式会社名誉フェローの吉野彰氏を迎え、広島国際会議場にて開催しました。

⑦ **大学寄付講義** (広島県)

広島文教大学で「地域と社会」の集中講義を対面で行い、その後、学生はボランティア実習を行いました。

また、広島女学院大学及び広島大学大学院に講師を派遣しディベート演習の講義支援を行いました。

各事業の概要を以下に記します。

I. 科学技術振興に関する活動の概要

I-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

(1) 募集内容

(a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

(b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③化学系材料、④物理系材料の4分野に係わる先進的・独創的な研究。

(c) 募集方法

公募

(d) 助成金総額

3,000万円 (100万円×30件)

(e) 助成期間

1年または2年

(f) 募集期間

2024年4月10日～5月31日

(g) マツダ研究助成奨励賞

マツダ研究助成対象の中から若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした研究に対して授与する。

副賞(追加助成金) 50万円 × 4件 (各分野1件)

(2) 分野別応募・選出状況

合計188件の助成申請書を受理しました。分野別内訳は、以下のとおりです(選出数/応募数)。

- ・機械 6件/38件
- ・電子・情報 7件/45件
- ・化学系材料 9件/57件
- ・物理系材料 8件/48件

(3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(8月1日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として30件(内、研究助成奨励賞候補4件)が選出され、第57回理事会において正式に承認決定しました。

(4) 助成贈呈書の贈呈

選出された30名の研究者に対して贈呈訪問を行い、贈呈書を送りました。

2. 交流会と贈呈式

今年度は、10月に新規採択者とオンライン交流を行い、10月～翌1月にかけて所属機関を訪問し贈呈式を行いました。また、7月には、高校生に科学への興味関心を持っていただくため、若手研究者と高校生を繋ぎ交流会を初めて開催しました。

3. 第40回(2024年度)マツダ研究助成一覧 — 科学技術振興関係 —

助成対象研究の概要は、以下の通りです

◆印付きは循環・省資源に係わる研究

S印付きは研究助成奨励賞受賞

研究題目および研究概要		研究代表者		助成金額 (万円)
【化学系材料】				
メカノケミカル法を用いた結晶歪みの導入による新規光触媒材料の開発	◆	長川 遥輝 茨城大学 助教	S	150
近年、光触媒の欠陥に焦点を当てた材料開発が注目されているが、そのほとんどは、原子の欠損による「結晶欠陥」に関する研究である。原子の並びの乱れによる「結晶歪み」に関しては、材料の合成に積極的に活用した例はなく、反応への影響もほとんど明らかにされていない。本研究では、加圧等の簡便なメカノケミカル法を光触媒に適用することで、結晶に歪みを導入し、新規光触媒材料を開発する。最終的には、太陽光を用いた、廃棄物からの水素製造反応に活用し、開発した材料合成プロセスの有用性を示す。				
高精細イオン認識デバイス開発に向けた、イオン応答性生体超分子構造の設計		関 貴一 弘前大学 助教		100
近年、特定のイオンを検出分離する技術は、精度の高い環境測定や医療診断、そして海水の脱塩機構の実現のために注目を集めている。その技術を確認するためには、電極界面でのイオン環境を理解し、高感度に検出する界面機構の構築・設計が不可欠である。本提案では、ナノ電子材料に生体分子のイオン応答性を付与することを目的に、プローブ顕微鏡と界面振動分光法を組み合わせることで、界面のナノバイオ超分子構造の設計指針の確立に取り組む。				
オリゴマーの分子設計自由度を活かした有機伝導体の高伝導度化	◆	小野塚 洸太 長岡工業高専 助教		100
情報化社会の急速な発展に伴い、数多くの分野でエレクトロニクス材料は、注目を集めている。中でも、柔らかく、かつ生体と調和が期待でき、印刷プロセス適合性のある有機伝導体は、高い注目を集めている。本研究では、高い分子設計自由度を有し、単結晶構造取得可能であることから伝導機構の解明、機構に基づいた材料設計が可能であるといった特徴を持つ高分子と低分子の間に位置する「オリゴマー」に着目し、有機伝導体の高伝導度化を目指す。				
イオン性分子集積体を利用するオンデマンド機能変換物質の創製	◆	鈴木 修一 大阪大学 准教授		100
本申請では、磁性、電気伝導性、イオン伝導性、誘電性、柔軟性などの物性・機能をオンデマンドで変調可能なイオン性分子集積体の設計指針の確立と新奇機能の開拓を目的としている。そのために、(i) 集積状態の構築が可能なイオン性分子を創製し、(ii) それらイオン性分子の対イオンを含めた集積特性や基礎物性を検討する中で、外部刺激に対してオンデマンド応答を示す革新的イオン種集積体の創製を目指す。また、液状化可能なイオン性分子集積体を利用することで、素子構造への成型を単純化して種々の機能化を目指す。				
弾性・磁性・電気伝導性の物性複合化と化学ドーピングによる力学特性の精密制御		堀井 洋司 奈良女子大学 助教		100
外力に対して柔軟に変形しつつも電気を通し、磁性を有する分子性弾性結晶を開発します。弾性・磁性・電気伝導性を単一の結晶で実現することで、外力に対して物性が鋭敏に変化するような新しい機能性材料の構築が可能となり、フレキシブルな電子デバイスや外力応答性のスピントロニクスデバイスなど、革新的なデバイスへの応用が期待されます。				
高い安定性を有するイオン性有機光触媒の創製と有機EL材料合成への応用	◆	田中 健太 岡山大学 助教		100
イオン性光触媒は可視光を駆動力として利用できることから、これまで多くの光触媒反応に利用されている。その一方で、これまで開発されたものは求電子性が高く安定性に欠けているため、反応系中でしばしば分解してしまうことから、新たな光触媒の開発が求められている。本研究では高高い置換基を導入し安定性を向上させた新規イオン性有機光触媒の開発と有機EL材料合成への応用を目的とする。これにより、従来の光触媒では適応が難しかった機能性材料などの合成に繋がる様々な光触媒反応を開発できるようになる。				
超臨界流体法によるDAC(Direct Air Capture)用多孔質材料の新規創製	◆	宇敷 育男 広島大学 准教授		100
研究代表者は、CO2吸収剤であるイオン液体を、超臨界流体を用いて金属有機構造体(MOF)の有するナノ細孔空間に含浸・担持させることによりイオン液体含浸MOFを創製し、これを大気中からCO2を直接的に分離回収する技術であるDAC(Direct Air Capture)へと応用する方法論を新たに着想した。MOFは既存の多孔質材料を凌駕する高比表面積(~4000 m2/g)を有することから、そのナノ細孔内にCO2吸収剤であるイオン液体を均一含浸させることにより、DACプロセスにおけるCO2との接触表面積を極大化させることが可能となる。本申請課題は、このような方法論を具現化するためのものである。				
排ガスから水と熱を同時回収する水蒸気回収膜システム: 金属イオンドープ型オルガノシリカ膜による高度な水蒸気/ガス分離	◆	森山 教洋 広島大学 助教		100
産業プロセスで、水は汎用な熱媒体として使用される。これらは最終的に熱水および/または蒸気として環境中に放出されるが、特に蒸気には潜熱として大量のエネルギーが含まれている。我々は、オルガノシリカ膜を利用して、排ガス中の水蒸気成分のみを選択的に回収し、水資源・エネルギー源として再利用するプロセスを提案している。本研究では、膜の水蒸気/ガス透過速度比を向上させることを目的にオルガノシリカ構造中に金属イオンをドープする手法を提案する。				

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<p>気相クラスター反応と超高压実験で探究する窒化セリウムによる窒素活性化機構 ◆</p> <p>窒素固定は現代生活に欠かせないが、多大なエネルギーと希少な金属資源を要するプロセスである。近年、窒化セリウムによる窒素分子の活性化が報告され、反応の効率化と実用化に向け、そのメカニズムの解明が望まれている。そこで、最先端の気相クラスター実験技術と超高压実験を相補的に用い、窒素の活性化に必要な窒化セリウムの幾何構造と電子構造を明らかにする。希少な金属を使用しない、少ないエネルギーでの窒素固定プロセスの実現に向け、欠かせない研究課題である。</p>	<p>荒川 雅 九州大学 准教授</p>	100
【機械】		
<p>Gyroid構造を有する高性能蒸発器の開発 ◆</p> <p>本研究は、Gyroid構造を用いた熱交換器の性能向上を目指すものである。Gyroid構造は3次元曲面を有し、流体混合による伝熱促進が可能である。本研究では、Gyroid構造内の蒸発流れにおける圧力損失特性および伝熱特性を予測するモデルを構築し、熱流動特性の解明を目指す。この熱交換器の適用先として、EVなどのヒートポンプシステムを見据えており、この技術により高効率かつ軽量なヒートポンプが実現し、車内の快適性向上と航続距離の延長の両立が期待される。</p>	<p>廣川 智己 兵庫県立大学 助教</p>	S 150
<p>大気圧放電により生成される電気流体力場と発熱場のデータ同化による解明手法確立 ◆</p> <p>本研究は、大気圧放電を用いて空気の流れを制御することができるプラズマアクチュエータ(PA)と呼ばれるデバイスに関する研究である。PA駆動時には電気流体力場と発熱場が生成され、周囲の気体の流れや性質を変化させる。電気流体力場と発熱場はいずれについても実験計測により可視化することが困難な場である。本研究では、流体シミュレーションと流体計測をデータ同化により統合した推定手法を確立することで、これまで未解明とされてきた電気流体力場と発熱場の分布解明に取り組む。</p>	<p>金子 泰 東北大学 助教</p>	100
<p>超高速摩擦界面を可視化するオペランド電気化学インピーダンス計測基盤の構築</p> <p>本提案では、近年の輸送機器の電動化に伴う摺動機械要素(摩擦・摩耗・潤滑を担う機械要素)の「超高速化」に鑑みて、「超高速領域の潤滑状態を反映した物理量をオンラインで計測可能な電気化学インピーダンス計測法による摺動機械要素の潤滑状態モニタリング技術(図1)」の開発を試みる。本研究提案により、次世代のEV市場開拓に向けた基礎技術開発:機械要素・潤滑油開発のための革新的な計測技術基盤を構築する。</p>	<p>大久保 光 横浜国立大学 助教</p>	100
<p>微小スケールのせん断不安定性による高効率混合促進技術</p> <p>流れの中で生じる熱や物質の拡散の解明と制御は工学的に重要な課題である。本研究では、微小スケールで生じるせん断不安定性を利用した混合促進技術を提案し、その実現可能性を検証する。この不安定性は、弱い擾乱でも容易に誘起されるため、少ないエネルギーで高い混合促進効果が期待される。異なる密度を持つ二つの流体の界面における混合に関する水槽実験を通じて、不安定性誘起による混合促進効果を検証することを目指している。</p>	<p>渡邊 智昭 京都大学 准教授</p>	100
<p>赤外線カメラによるマルチマテリアル接合構造に生じる疲労損傷その場観察法の構築</p> <p>本研究は自動車業界が着目するマルチマテリアル構造を形成する上で必要な異材接合継手の高強度・長寿命化を目指す。高強度かつ長寿命な継手を作製するためには、複雑な接合構造から生じる損傷メカニズムを解明し、それを基に弱部を補完する接合条件の最適化を行う必要がある。そのため本研究は、継手全体に生じる損傷過程を熱応答で示す赤外線その場観察手法を構築し、マルチマテリアル構造の損傷挙動を赤外線サーモグラフィのみで継手外部から連続的に解明する。</p>	<p>小川 裕樹 広島大学 助教</p>	100
<p>乱流燃焼中におけるすす構成化学種の非定常的応答性の調査</p> <p>本研究課題は乱流の非定常的挙動に対するすす生成の反応応答速度を明らかにすることを目的とする。種々の多環芳香族に対し、流動特性時間—化学反応特性時間の相関性を実験的に調査し、多環芳香族にも適用可能なflamelet approachを構築する。対向流バーナーにスプレーカーを導入することで、流動場を非定常的に変化させる。それに対する多環芳香族濃度の変化を測定することで各化学種の反応応答時間をデータベース化する。このデータベースを組み合わせることですす火炎計算向けのflamelet approachを提案する。</p>	<p>安藤 詩音 九州大学 助教</p>	100

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【電子・情報】		
パルス圧縮技術に基づく微小スペースデブリ検出法の実験的検証	秋田 学 電気通信大学 准教授	S 150
<p>持続可能な社会実現のために2030年までの持続可能な開発目標 (SDGs) が設定され、多くの取り組みを進められている。近年は地球のみならず宇宙を含む領域での持続可能性もまた重要なテーマとなっている。本研究では、静止軌道周辺の衛星やデブリを小型光学望遠鏡によるリアルタイム搜索・監視可能とする観測法及び信号処理法を研究開発する。本研究の当該研究助成期間において、申請者らが提案する微小スペースデブリ検出技術(線分積分法)により、過去に検出されていない静止軌道上の微小デブリを検出・カタログ化が可能であることを実験的に検証する。</p>		
新規MRI撮像シーケンスによる生体組織の電磁気特性の定量的イメージング	伏見 幹史 東京大学 特任助教	100
<p>本研究では、MRIを用いた生体組織の電磁気特性の定量的イメージングを目的として、そのための新規計測手法の開発と評価を行う。近年、MRIを用いた人体内部の磁場分布計測を介して導電率、誘電率、磁化率といった電磁気特性を画像化する枠組みが、各種病変の早期診断・精密診断や、人体の電磁界暴露に対する安全性評価の観点から注目されている。期間中に新規撮像シーケンスを開発することで計測の高速化・高精度化を行うとともに、その有効性をヒトを含めた実験で検証することで、当該技術の実用化を進める。</p>		
2軸制御フラックススイッチング形ベアリングレス単相モータの開発	◆ 藤井 勇介 東京工業大学 助教	100
<p>ベアリングレスモータは、トルクを発生しながら回転子を非接触磁気支持するという利点を有するが、システムが大型化・高コスト化する。そこで本研究では、ベアリングレスモータの簡素化を目指し「2軸制御フラックススイッチング形ベアリングレス単相モータの開発」を目的とする。(1)三相インバータ1台のみで浮上回転、(2)巻線の統合巻線化、(3)回転角度検出を不要とする支持力制御、さらには(4)固定子永久磁石配置による冷却容易性を組み合わせることで、前例の無い簡素化システムを実現する。</p>		
複数の障害物から構成される音響メタマテリアルの音速制御理論と応用デバイスの試作	◆ 高橋 義典 工学院大学 准教授	100
<p>本研究では、マイクロホンやスピーカの指向性の制御、およびコンサートホールなどの響きを調整する音響メタマテリアルの設計理論の確立と試作を試みる。近年進められている音響メタマテリアルの研究は、共鳴器を応用したもの、薄膜の振動抵抗を利用したもの等が主流である。一方、1950年代にも障害物を使用した音響レンズが提案されていたものの、実用例は少ない。しかし、このような音響メタマテリアルは音速制御が可能であり、高度な音波制御が実現できる。高効率な音響デバイスは省エネ(循環・省資源)にも有効である。</p>		
高効率な海水中非接触電力伝送システム実現のための誘電損失の解析	◆ 稲森 真美子 東海大学 准教授	100
<p>本研究の目的は、海水中の非接触電力伝送システムにおいて、低周波数で分極の影響を減らして比誘電率の測定を行い、より正確な損失解析を行うことである。電気自動車に用いられる85kHz帯を用いて海水中で非接触電力伝送を行う場合、既存の平行平板法では分極により比誘電率が大きくなる。この分極の影響は電力伝送における誘電損失の計算において誤差となり、伝送効率の低下要因を正確に解析できない。本研究では、電気二重層キャパシタを用いた測定システムを構築し、誘電損失の解析を行う。</p>		
筋電信号処理と画像処理を組み合わせた機能的かつ汎用的な義手システムの開発	松田 基 岐阜工業高専 助教	100
<p>手を欠損されている方にとって、残存する腕の筋肉の収縮で生じる筋電位変化から義手を操作する筋電義手を使用することは非常に有用であるが、様々な要因で半数程度の上肢切断者は義手を使用していないという報告がある。特に多自由度ハンド使用者は機能性(把持動作、信頼性など)を重要視する。一方で近年発展が著しい深層学習を用いた画像認識による物体把持では物体形状に適したハンド姿勢を計算できる。本研究では多自由度の筋電義手による物体把持に画像処理を組み合わせ、機能性の高い義手システムを開発する。</p>		
低価格帯3Dスキャンを用いたの体幹のスキャンの確立と離島への体幹装具の早期供給環境の構築	◆ 森永 浩介 広島国際大学 講師	100
<p>本研究の目的は、低価格の3Dスキャン技術を用いて、体幹のスキャン技術を確認し、離島への体幹装具の早期供給環境を構築することです。広島国際大学の研究グループは、既にCTスキャンデータから体幹装具を製作する技術を臨床で実用化していますが、離島や僻地ではCTなどの高価な機器が不足しており、古典的な手法に頼らざるを得ないため、納品までに時間がかかります。本研究では、スマートフォンと治具を用いたphotogrammetry技術を活用し、体幹装具を設計するシステムを構築します。高額な3Dスキャナーと比較しても誤差の少ない方法を検証し、離島でも迅速かつ低コストで体幹装具を供給できる環境を実現します。</p>		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【物理系材料】		
風車分子を利用した単分子誘電体の開発	眞邊 潤 広島大学 助教	S 150
ビッグデータの活用が進む現代社会において、強誘電体は高速応答・低消費電力のメモリとなりうることから注目されている。しかし、強誘電性はバルクの物性であるため、単一分子での強誘電性の発現は不可能であると考えられており、微細化の限界が問題となっていた。このような背景の中、当研究室では籠状分子の「分子内イオン移動」を利用することで、単一分子で強誘電性を示す単分子誘電体を見出した。本研究では、「分子回転機構」を利用することで、これまでの発現機構とは異なる新規単分子誘電体を開発する。		
強スピン軌道相互作用を有する磁性酸化物薄膜を基盤とするグラデーショ ンスピントロニクス創製	神永 健一 東北大学 助教	100
本研究では室温強磁性体である重元素ドーパペロプスカイト型マンガン酸化物薄膜をベースに、研究代表者考案の、スピントロニクス分野と傾斜組成薄膜の融合研究である“グラデーションスピントロニクス”という新分野創製を目的とする。研究代表者所属の研究室が独自開発した世界唯一のガルバノミラー走査型パルスレーザ堆積装置でナノ傾斜組成エピタキシャル薄膜を作製し、SQUID測定・偏極中性子反射率測定・強磁性共鳴測定を組み合わせることで傾斜組成構造が磁気・スピン特性に及ぼす影響を明らかにする。		
欠陥極少化した単結晶Ni-Mn-Ga粒子を用いた複合材料の設計とその力 学・機能性の解明	◆ CHIU WAN TING 東京工業大学 准教授	100
ここ数十年、エネルギー・環境問題が深刻になり、高機能性、高効率、環境に優しいエネルギー材料が多く求められている。また、高齢化や、人口減少の課題もあり、ロボットや、モノのインターネットなどに適する材料も盛んに研究開発されている。本研究では、それらの課題に対し、新たな複合材料を研究開発する。本研究では、独自の手法で簡易的に欠陥の極めて少ないNi-Mn-Ga単結晶粒子を達成し、さらに、それらの単結晶粒子を使用し、新たな①Ni-Mn-Ga単結晶粒子/シリコーンゴム複合材料と②Ni-Mn-Ga単結晶粒子/Cu薄膜積層複合材料創成する。		
高効率量子光源の実現に向けたダイヤモンドナノデバイスの開発	車 一宏 東京大学 助教	100
ダイヤモンド中のカラーセンターが量子光源や量子メモリなどを実現する量子情報プラットフォームとして近年注目を集めている。バルク中では発光の取り出し効率率が低いことから、光ナノ構造との光結合を実現することで発光増強と取り出し効率の改善が期待される。本研究では、ダイヤモンド中のカラーセンターを用いた高効率量子光源の実現に向けたダイヤモンドナノフォトニックデバイスの開発を目的とする。特に、単結晶ダイヤモンド上におけるフォトニック結晶導波路を設計し、その実験的実証を目指す。		
光電流による半導体中単一スピンの室温検出で拓く潜在スピンの高効率利 用	◆ 森岡 直也 京都大学 准教授	S 100
半導体の原子レベルの欠陥が作る電子状態に付随するスピンは、室温で動作する量子ビットとして注目され、量子センシングや量子情報の応用が期待される。従来、これらのスピンの基礎科学および応用研究は蛍光によるスピン状態検出に依存している。しかし、必ずしも有用な欠陥に対して高感度な単一光子検出器が利用可能とは限らない。本研究では、従来の光技術で検出困難な単一スピンを研究するための手法としての電氣的なスピン検出法を探索し、これまで利用が困難であった欠陥を容易に利用可能にすることを目指す。		
セラミック光造形のための有限要素解析による複雑な熱交換器形状の最適 化。	◆ Fiona Spirrett 大阪大学 助教	100
先端セラミック材料は、研究や産業で人気があり、高硬度、耐久性、耐高温性、耐薬品性、生体適合性などの特性を持つ。熱交換器は、冷却装置、発電、廃熱回収などで不可欠な部品であり、効率の向上が環境への影響を減らす。本研究では、セラミック粒子を感光性樹脂に分散させ、UVレーザーで硬化させるセラミック立体リソグラフィを用いて、複雑なセラミック熱交換器を製作する。有限要素解析などの計算解析手法は、部品効率向上のための最適な熱交換器形状の決定に役立つ。		
水素液化磁気冷凍材料の開発: 化学的圧力効果による磁気熱量効果制御	◆ 松本 圭介 愛媛大学 准教授	100
磁気冷凍とは、磁性体に磁場を印加または除去したときに発熱または吸熱する現象(磁気熱量効果)を利用した冷却方法であり、新しい水素液化技術として注目されている。本研究では、水素液化温度の20 K以上で大きな磁気熱量効果を示す希土類合金の開発に取り組む。組成を制御した希土類合金の物性測定から、格子の変化体積が磁気相転移温度や磁気熱量効果に与える影響を明らかにする。体積変化に伴う化学的圧力効果で磁気熱量効果を制御することで、新しい水素液化磁気冷凍材料の開発を目指す。		
異種金属接合により生じるガルバニック腐食の磁場による制御	小林 領太 久留米工業高専 助教	100
鉄鋼材料、Cuなどの自己腐食に対する磁場効果が議論されておりローレンツ力による抑制効果やMHD効果による促進が報告されている。これらに対して、水溶液中で二種類の異なる金属を接触させた場合にイオン化傾向の大きな金属が急激に腐食される。このような系において自己腐食も同時に起こるため、それぞれの腐食に対する磁場効果を明らかにする必要がある。本研究では、二種類の金属を接合した状態で磁場中で腐食を行い、各材料の強度や接合度合いを評価する。		
合計	30件	3,200

4. 第40回(2024年度)マツダ研究助成奨励賞一覧 ー科学技術振興関係ー

マツダ研究助成奨励賞は、助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした各分野1件の研究に対して授与されるもので、副賞として研究助成金50万円が追加助成されます。□

(註)研究代表者役職は応募時

分野	研究題目および選考理由	研究代表者
機械	Gyroid構造を有する高性能蒸発器の開発	廣川 智己 兵庫県立大学 助教
選考理由	本研究は、3次元曲面を有し、流体混合による伝熱促進が可能なGyroid構造に着目して熱交換器の性能向上を目指す研究である。具体的には、ヒートポンプシステムの要素機器である蒸発器へGyroid構造を適用し、蒸発をともなう二相流の圧力損失と伝熱特性に関する予測式を見出す。本研究成果により、熱交換器の小型化・高効率化が可能となり、BEVやPHEV(モータ走行時)の車内快適性向上と航続距離延長の両立が期待できることから奨励賞を贈呈する。	
電子・情報	パルス圧縮技術に基づく微小スペースデブリ検出法の実験的検証	秋田 学 電気通信大学 准教授
選考理由	人類が解決すべき重要課題になりつつある、宇宙領域でのサステナビリティ実現に向け、静止軌道周辺の衛星やデブリを、小型光学望遠鏡を用いてリアルタイムに捜索・監視可能とする観測法と信号処理法を研究開発しており、極めて社会的意義が大きい。また、デブリを「点」ではなく「あえて線分」として検出する独自の手法を考案し、低コストなリアルタイム処理が可能となる。以上から、実現可能性も高いと判断し、奨励賞を贈呈する。	
化学系材料	メカノケミカル法を用いた結晶歪みの導入による新規光触媒材料の開発	長川 遥輝 茨城大学 助教
選考理由	加圧等の簡便なメカノケミカル法を光触媒に適用する着眼は独創性が高く、本光触媒を用いて太陽光を利用した廃棄物から水素を製造する合成プロセスは先進的である。また、申請者は若いながらも、本研究に関する質の高い論文を多く執筆しており、格子制御技術により光触媒分野の発展と新しいニーズ開拓の可能性が高く評価された。よって、奨励賞を贈呈する。	
物理系材料	風車分子を利用した単分子誘電体の開発	眞邊 潤 広島大学 助教
選考理由	申請者は、状分子の「分子内イオン移動」を活用し、単一分子で強誘電性を発現する誘電体を見出した。本研究では、それを発展させ「分子回転機構」を利用することで、発現機構の異なる新規な単分子誘電体を開発するものであり、今後の研究開発が大いに期待される。この独創的で先進性に富む研究に対し奨励賞を贈呈する。	

I - 2. 事業助成

1. 募集・応募・選出状況

(1) 募集内容

(a) 助成趣旨

学会・研究機関等に属する研究者及び非営利団体が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした科学体験に関する事業や研究会等に助成することで、科学技術振興を推進します。

(b) 助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校、高等学校、非営利団体に所属し、申請事業の開催責任者または出版物の主なる著者によって実施される以下の活動。

- ・青少年を対象とした「科学体験」事業の開催
- ・高等学校における科学技術に関わる探究活動
- ・高等学校における科学クラブ等の活動
- ・その他、科学技術に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法

公募

(d) 対象地域

中国地方

(e) 助成金総額

200万円（22件、2～10.5万円/件）

(f) 助成期間

2024年6月1日～2025年5月31日

(g) 募集期間

2024年4月1日～5月7日

(2) 応募状況

本年度は、44件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

- | | | | |
|------|----|------|-----|
| ・鳥取県 | 4件 | ・広島県 | 24件 |
| ・島根県 | 3件 | ・山口県 | 4件 |
| ・岡山県 | 7件 | | |

(b) 分野別

- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) 青少年を対象とした「科学体験」事業の開催 | 16件 |
| (2) 高等学校における科学技術に関わる探究活動 | 9件 |
| (3) 高等学校における科学クラブ等の活動 | 16件 |
| (4) その他 | 1件 |

(3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会（5月24日）において慎重に審査され22件が選出されました。

2. 第40回（2024年度）マツダ事業助成一覧 ー科学技術振興関係ー

事業名	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
みなさんも“プロの思考・技術”を体験してみませんか？ ～野球を通じて科学探究を普及する取組～	広島市	西 武宏 広島県立祇園北高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
福山市のばらの廃棄される枝を『ばらバイオコークス』にして再利用	福山市	岡崎 暢寿 近畿大学附属広島高等学校 福山校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
地域の雷観測システムの開発	下関市	木原 秀人 山口県立下関工科高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
体験化学教室	東広島市	石原 康宏 広島大学教授	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
マツダ財団後援 親子科学教室in修道高校 ー光の不思議ー	広島市	井山 朝之 修道高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	4.8
磁石の世界 ～磁石にくっつく不思議な液体「磁性流体」～	松江市	鈴木 聖弥 松江工業高等専門学校助教	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
幸運を呼ぶ?!クワイーパー!	福山市	鳥尾 健介 広島県立福山明王台高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
ピオーネづくり名人を目指そう	岡山市	福田 文夫 岡山大学教授	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
高校新聞のデータの解析～より読みやすい紙面傾向の可視化～	広島市	花岡 健吾 崇徳高等学校新聞部教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	2
糖類の熱的挙動に関する研究～カルメ焼きはなぜスクロースを使うのか?～	松江市	原 誠実 島根県立松江東高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
倉工科学部におけるモデルロケット開発と全国大会及び成果発表会への参加	倉敷市	藤田 学 岡山県立倉敷工業高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
舟入生が生み出す「ユニバーサルデザイン文房具」 ー「ユニバーサルな文房具とは？」	広島市	柏原 奨平 広島市立舟入高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	5.7

事業名	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
まるごと徳山高専2024 ～子供たちの“心”を育むモノづくりワークショップ～	周南市	宮崎 亮一 徳山工業高等専門学校准教授	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
公開講座「エジソン・スクール」	呉市	重松 尚久 呉工業高等専門学校 協働研究センター長	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
ウメの培養系確立に向けた基礎的研究	広島市	石原 悠作 ノートルダム清心中・高等学校 生物教室教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10
ジャガイモ酢の成分分析および地元企業と連携した酢開発	広島市	石田 真一 広島修道大学ひろしま協創中 学校・高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
第17回コンクリート甲子園への参加	広島市	小林 安久 広島市立広島工業高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
3Dプリンタと生成AIを活用したものづくり体験による両技術の理解促進	米子市、 鳥取県内	川戸 聡也 米子工業高等専門学校准教授	2024/06/01 ～ 2025/05/31	5.5
ワークショップだよ！全員集合！	広島市	平原 豪人 広島工業大学高等学校全日制課程 K-S T E A M類型長	2024/06/01 ～ 2025/05/31	7
電池に関する研究	岡山市	小野 政博 岡山芳泉高校サイエンス部指導教 諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	7.5
養コオロギ副産物で土壌改良材開発～サーキュラー・バイオエコノミーの実現に向けて～	東広島市	大野 佑二郎 広島県立西条農業高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
発芽における促進&抑制の要因に関する研究～フィールドとラボの往還を通して～	福山市	濱田 美美 広島県立大門高等学校教諭	2024/06/01 ～ 2025/05/31	10.5
合 計		22件		200万円

I-3. 科学わくわくプロジェクト

(1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学等が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取り組みブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有しています。

- ・ 現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・ 財団と大学の連携事業である。
- ・ 多様な事業で構成される複合的な事業である。
- ・ 教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待される。

(2) 連携先

科学わくわくプロジェクト実行委員会

委員長：広島大学 林 武広 名誉教授（元比治山大学副学長・教授）

(3) 主要事業

① サイエンスレクチャー

（中高生を対象とした出張・出前型講座；要請により可能な範囲で社会人等も対象とする）

今年度は3学期に3つの中学校・高等学校にて対面方式で実施。

テーマは「宇宙の構成」「広島花崗岩について」「ブラックホールとガンマ線バースト」の3つ。

② 専門家による科学教室(旧ジュニア科学塾)

（理科好きの中高生が高度な科学内容を学ぶことを通して先端的科学への関心を高め、学ぶ意欲を育む集中講義）

科学関連施設の見学などの「体験講座」1件、中学校の授業に出向いて「教員と連携した理科授業」5件・個人向け指導「科学の探究」1件

③ 小学校理科ひろば

（小中学校理科授業充実のための教員支援として、小学校高学年理科出前示範授業及び現職教員研修）

30校で4年生、5年生及び6年生理科の特別授業を、のべ52回対面で実施。

テーマは、4年生「夏の月と星」「冬の月と星」、5年生「流水の働きと土石流、津波」「天気の変化」「自然災害と防災」、6年生「月と太陽」「土地のつくりと地層」など多彩な授業を実施。

(4) マツダ財団負担金

50万円

I-4. 先進サイエンスサロン

(1) 内容

「先進サイエンスサロン」は、マツダ財団と広島大学大学院先進理工系科学研究科が連携して2023年度から実施している事業で、身近なテーマについて話し合うことを通して地域の方との交流を深めることを目的とした市民参加型の公開講座です。また、科学を目指す若者の保護者を強力なサポーターになっていただくことも目的としています。

2024年度は、広島大学創立75+75周年記念の特別版として実施しました。当日は、悪天候による交通渋滞にも関わらず、会場は満員となり、熱気あふれたサロンとなりました。

- ① 開催日： 2024年11月2日(土)
- ② 開催場所： 西条HAKUWAホテル
- ③ 対象： どなたでも可(要予約)
- ④ 演題： カーボンニュートラル社会とロータリーエンジン復活が描く電動化の将来
- ⑤ パネラー： マツダ株式会社 技術本部 副本部長 藤崎周二
マツダ株式会社 技術本部 電動車生技部 部長 上藤和佳子
広島大学大学院 先進理工系科学研究科 教授 力石真
広島大学大学院 先進理工系科学研究科 教授 作野裕司
- ⑥ 聴講者数： 50名

Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要

Ⅱ-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出

(1) 募集

(a) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る教育現場及び市民活動の活性化に役立つ汎用性の高い研究（基礎的研究を含む）。

対象研究分野：①ボランティア育成 ②若者の居場所づくり ③地域連帯・コミュニティづくり
④自然とのふれあい ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり

(b) 募集方法	公募
(c) 対象地域	全国
(d) 助成金総額	400万円（1件の上限100万円、4～5件）
(e) 助成期間	1年または2年
(f) 募集期間	2024年4月15日～6月15日

(2) 応募と選出

青少年健全育成関係選考委員会（7月）において、慎重に審査された結果、応募43件の内助成候補として5件が選出され、第57回理事会において正式に承認決定しました。

2. オンライン交流会と贈呈式

今年度は、10月に新規採択者とオンライン交流会を行い、10月から11月にかけて所属機関を訪問し、贈呈式を行いました。

3. 成果報告会（市民活動支援と合同開催）

2025年2月、対面での成果報告会を実施しました。研究と実践の融合を図るため、2024年度に終了する市民活動29団体との合同開催とし、加えて市民活動に興味をお持ちの一般の方にもご参加いただきました。選考委員の明石先生の基調講演（テーマ：「幼保小の架け橋を推進する方策」）を皮切りに、ポスターセッション（研究者・市民団体）、パネルディスカッション（テーマ：地域における居場所と今後の展望）を実施しました。

4. 第40回(2024年度) マツダ研究助成一覧 —青少年健全育成関係—

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
自立準備ホーム入所者の非行からの離脱プロセス	大江 将貴 帝京大学助教	81
<p>本研究の目的は、非行経験者の非行からの離脱過程を明らかにすることである。さらに、非行経験者を受け入れている自立準備ホームが、非行からの離脱過程にある少年にとってどのような意味を持っているかを明らかにすることも本研究の目的である。具体的には、非行経験者が入所している自立準備ホームを対象とし、非行経験者である少年と自立準備ホームのスタッフに対してインタビュー調査を実施する。特に、少年に対しては縦断的なインタビュー調査を行うことで、非行からの離脱過程における継続的な変化に注目する。</p>		
障害や慢性疾患を有する者と同居するヤングケアラーのためのオンラインピアサロンやウェブセミナーの開催と効果検証	涌水 理恵 筑波大学准教授	80
<p>介護・看病・療育を要する特定の家族員を無償でサポートする家族らをケアラーと呼ぶ。日本では医学の発達で救命率が上がり、経管栄養や痰の吸引、呼吸管理など医療的ケアを必要とする児者も含め、在宅療養者が急増している。早期退院・在宅移行という国の方針もあり、在宅療養者のケアを余儀なくされたケアラーが地域資源を活用できぬまま児者を抱え込み社会から孤立し、抑うつ状態やストレス、疲弊を抱える実態が報告されている。</p> <p>本研究では障害や慢性疾患を有する者と同居するヤングケアラー、青年ケアラーの負担感と困難感を軽減し、また彼らと、彼らに日常的にかかわる専門職を教育・啓発する目的で、1) ピアサロンの場の提供、2) 専門職への個別相談、3) ウェブセミナーの開催を柱としたリモートケアシステムの社会実装研究を行い、1)2)3)の利用実態をまとめ、効果検証を試みる。</p>		
こどものポジティブな行動を促す接し方のプログラム開発：地域住民と協働創造	小口 真奈 沖縄科学技術大学院大学リサーチ・フェロー	75
<p>本研究は、発達障害のうち、とくに注意欠如多動症の傾向がある子どもとその保護者を対象に、研究知見をもとにしたサポートプログラムの効果を検証し、LINE・アニメ動画・ウェブサイトなどを用いた支援の普及を目指している。</p> <p>そのため、実際にサービスを利用するエンドユーザーであるコミュニティメンバーと、プログラム内容や普及プロセスについて共創する。このような共創プロジェクトの過程や効果検証の結果に関する発信を通して、地域におけるコミュニティ形成を促進させ、プログラムの定着を展望している。</p>		
動物園・水族館の行う「移動動物園」や「動物貸出」の意義と教育効果の検証 —動物にふれあう学習機会の格差解消に向けて—	小野 永貴 筑波大学助教	70
<p>旧来、日本の多くの学校はウサギ等を飼育し、児童が動物へ接する機会が確保されていた。しかし、動物飼育を実施する学校は大幅に減少しており、学習機会の格差が生じることが懸念されている。この問題に対し本研究は、動物園が行う「移動動物園」「動物貸出」等に注目する。日本の動物園は、教育的役割を果たすために、園内での教育活動のみならず、園外での学校向け事業を実施している園が多数ある。これらの事業が、子どもたちが「動物にふれる学習」の機会を保障する手段として有効か、検証することを目的とする。</p>		
子どもの居場所と遊びの夢中度—サウンドとアートに着目した遊び場の創出—	駒 久美子 千葉大学准教授	94
<p>本研究は、子どもの居場所と遊びの夢中度を、サウンドとアートに着目した遊びの「場」の創出を通して検証するものである。子どもにとって、1日の大半を過ごす保育所が満足できる居場所であることは、子どもが等しく健やかに育つための重要な課題である。子ども自身が「ワクワク」しながら、様々な直接体験を通して「知る」こと、それを用いて何かを新たに「創る」こと、その循環を読み取る遊びの「場」を創出し、その「場」が子どもたちにとってどれほど満足できる居場所となりうるのかを実証的に検証する。</p>		
合 計	5件	400万円

Ⅱ－２．市民活動支援

1. 募集・応募・選出状況

(1) 募集

(a) 支援対象 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動。

対象分野：①「ボランティア育成」 ②「若者の居場所づくり」 ③「地域連帯・コミュニティづくり」
④「自然とのふれあい」 ⑤「国際交流・協力」 ⑥「科学体験・ものづくり」

(b) 募集方法 公募

(c) 対象地域 広島県、山口県

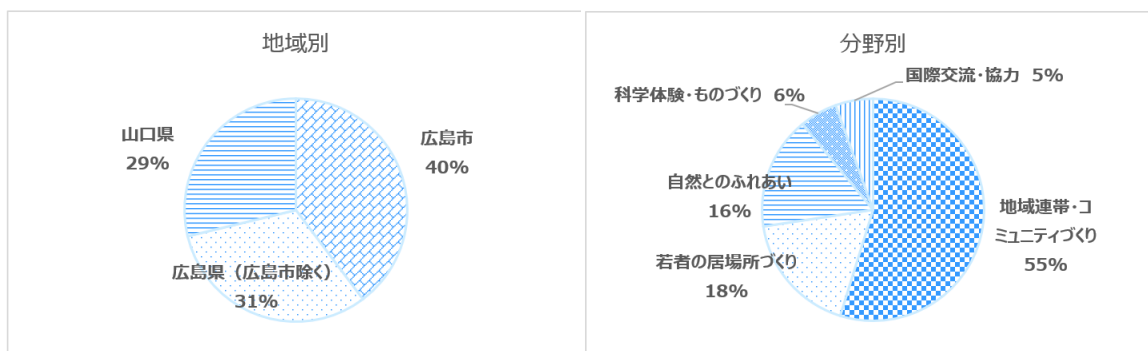
(d) 支援金総額 800万円 (1件当たり支援金額10万円～50万円)

(e) 支援期間 単年度支援 2024年4月1日～2025年3月31日の1年間

(f) 募集期間 2023年10月14日～2024年1月15日

(2) 応募状況

本年度は、73件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。



(3) 支援対象団体の選出

青少年健全育成関係選考委員会（2月）において、慎重に審議された結果、支援候補として29件が選出され、第57回理事会において正式に承認決定されました（広島県内：20団体、山口県内：9団体）。

2. 贈呈式

広島県と山口県の2会場において、それぞれ4月12日と4月18日に贈呈式を開催し、贈呈書の贈呈を行いました。

3. フォローアップ

(1) オンライン交流会

今年度は6月～7月に6回に分けて、少人数単位でのオンライン交流会を行い、23団体37名の皆様にご参加いただきました。

(2) 活動見学

活動の活発化に伴い、24団体を訪問しました。

(3) マツダ財団市民活動セミナー（オンライン）

2022年度より実施しているオンラインセミナーを3月20日「ヤングケアラーって実は身近なのかも」をテーマに開催しました。今年度支援団体に限らず過去に支援した団体や一般参加者を含め、今回のテーマに関心がある15名が集い、ヤングケアラーに関する基礎知識や私たちにできること等を学びました。当セミナーは、市民団体の活動支援となる知識を得るための講習会として専門家を招き実施しています。

(4) 成果報告会（研究助成、「若者×ツナグバ」参加団体合同開催）

今年度は29団体が終了されました（前年度から延期された1団体は次年度持ち越し）。2025年2月16日に、研究助成や「若者×ツナグバ」参加団体と合同で成果報告会を開催しました。

4. 第40回(2024年度) マツダ市民活動支援一覧 -青少年健全育成関係-

活 動 名	団 体 名	地 域	金額 (万円)
高校生マイプロジェクトアワード広島県Summit	一般社団法人 まなびのみなど	豊田郡大崎 上島町	35
子ども食堂の運営	「うつくしの杜」子ども食堂	広島市中区	17
学校や社会に適応できにくい人々が地域・社会・自然 の中で成長できる居場所づくり	NPO法人ガハハ塾	広島市中区	36
インクルーシブ子育て&付き添い入院応援事業	ぽこぽこトレイン	広島市安佐南 区	20
十二神祇神楽継承による青少年健全育成活動	國光神楽団	広島市安佐南 区	28
ドローンが映し出す、瀬戸の島に息づく歴史と自然の タペストリー	鳥観図	広島市安佐南 区	28
友楽タイムおいでよわせだっ子	友楽タイム実行委員会	広島市東区	12
スポーツに関する活動を通じた青少年の健全な育成と 地域の活性化	広島バスケクリニック	広島市東区	23
カマキリ博士の昆虫教室	こども自然みらい学びの場	広島市東区	35
ヒロシマ復興紙芝居・絵本制作およびヒロシマ絵おと 芝居公演事業	一般社団法人 まち物語制作委員会	広島市西区	28
プロと素人の共同によるものづくり文化の創出と継承	島会議	広島市西区	28
中学生がつくる冒険あそび場 「ワンダふるたパーク」	このまちにくらしたいプロジェクト	広島市西区	24
体験しよう!楽しもう!繋がろう! 似島わくわくスポーツ交流	似島スポーツクラブ	広島市南区	10
創作和太鼓の演奏	安芸府中奏作太鼓 楽打家(らくだや)	安芸郡府中町	40
人権紙芝居の読み聞かせ人材育成と普及活動	おんぷのまちプロジェクト	安芸郡府中町	26
J F 中高生ライブ	J F 中高生ライブ実行委員会	安芸郡府中町	19
子どもたちの第三の居場所づくり	地域協働総合文化本部	呉市	31
さがっば村 ものづくり (ロボットプログラミング教室 + レゴ)	さがっば村 もの作り応援隊	廿日市市	17
子どもジャーナリズム「スクープを放つ!」	T a n s a木のねっこ支部	廿日市市	28
「あつかど!」～遊び×学び オリジナルカードゲーム でつくる集いの場～	ひとあそび。	東広島市	35
第6回・第7回「ふくろう公園インクルーシブDAY」	遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会	岩国市	45
島田川流域と海を結ぶ体験学習	ひかりエコメイト	光市	17
子どもたちが主体的に運営する 『防災キャンプ』プロジェクト	防府市防災士等連絡協議会	防府市	50
防府市子育て応援隊	子育て応援隊 ままはあと	防府市	13
体験は学びのDIY 新しい学び環境充実へ!大人のアッ プデート作戦	一般社団法人 Happy Education	山口市	40
空き家を利用した不登校の家族と地域の大人の学び 場・居場所づくり～つくるを通して生きるを学ぶ～	トーキョーコーヒー山口	山口市	35
山口市在住の高校生を対象とした地域課題を解決する ための実践プロジェクト	山口トップランナープロジェクト (YTP)	山口市	50
きもので成人のお祝いをしよう!	セレーノ四つ葉 肢体不自由・障がい児者/親と仲 間の集う会	宇部市	10
わくわく土曜塾～ふるさと長門を知ろう～	わくわく土曜塾実行委員会	長門市	20
合 計	29件	800万円	〔 広島県 20件 520万円 山口県 9件 280万円 〕

Ⅱ－３．感動塾・みちくさ

(1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、1998年度から実施しています。

(2) 共同開催

(公財)広島市文化財団との共催。

(3) 開催場所・開催日等

① 広島市三滝少年自然の家

- ・2024年8月16日～8月18日 2泊3日
- ・参加者：小学4～6年生 参加36名（応募総数195名）

「『風』のふしぎ発見！感動体験」 風に関わる実験や工作、自然体験を通して風の不思議について学ぶ。

プログラム①「風が吹く原理に関わる基礎実験」 ②「上昇気流の利用、夏の星空観察」

- ③「風の利用①（植物編）」 ④「風の利用②（動物編）」
- ⑤「キャンプファイア」 ⑥「風とエネルギー」

② 広島市青少年野外活動センター

- ・2024年8月18日～8月20日 2泊3日
- ・参加者：小学3～4年生 参加30名（応募総数81名）

「草木」をテーマに観察や標本づくり、工作を通して、自然や自然と人との関わりについて学ぶ。

プログラム①「草木（植物）とは」 ②「草木（植物）観察」

- ③「仲間作りゲームと手持ち花火大会」 ④「夏野菜の観察・収穫」
- ⑤「夏野菜のピザ作り体験」 ⑥「間伐体験」 ⑦「キャンドルサービス」
- ⑧-1「葉脈標本作り」 ⑧-2「小枝クラフト」

(4) マツダ財団負担金

100万円

II-4. スタートラインプロジェクト (SLP)

(1) 内容

「スタートラインプロジェクト (SLP)」は、被虐待児等の自立を支援することを目的とした事業です。子どもシェルター「ピピオの家」(緊急避難場所) および「はばたけ荘」(自立援助ホーム) を開設・運営している NPO 法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実等を支援する事業を、2013 年度から実施してまいりました。近年、支援者・賛同者の輪も広がり、同センター自体が組織としても大きな成長をとげてきたことから、SLP は、2024 年度で終了を迎えることとなりました。

(2) 連携先

特定非営利活動法人ピピオ子どもセンターとの連携。

(3) 主要事業

被虐待児等に対する学習支援や就職・自立の支援、また、スタッフ・ボランティアスタッフのスキルアップのために、研修への参加や養成講座の開催等に対する支援を行いました。

① 被虐待児等の成長を支援するプログラム

・実施概要: 「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者に対する、マネー講座実施、自動車運転免許等の資格取得支援、就職活動及び就労支援、進学支援、学習支援、レクリエーション活動、退去者への生活支援などを行いました。

・対象者: 今年度の「ピピオの家」の入居者 9 名、「はばたけ荘」の入居者 2 名

② スタッフの能力開発を支援するプログラム

「第 14 回 NPO 法人ピピオ子どもセンターボランティアスタッフ養成講座」(全 6 講) の実開催

・参加者: 15 名

その他、以下の活動を支援しました。

2024 年 9 月 28 日～9 月 29 日 子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 埼玉への参加

2024 年 11 月 30 日～12 月 1 日 日本子ども虐待防止学会かがわ大会への参加

ケース会議への専門家の参加(4 月、5 月、6 月、7 月、8 月、9 月) 及び入居者アセスメント(4 月、5 月)

③ SLP 総括

2025 年 3 月 2024 年度青少年健全育成関係成果報告会にて、SLP 事業報告

2025 年 3 月 スタートラインプロジェクト報告書「未来に送る子どもたちへのバトン」発行

(作成: 広島国際大学岡本晴美教授)

(4) 支援金

49 万円 (スタートラインプロジェクト報告書印刷)

Ⅱ-5. 若者×ツナグバ

(1) 内容

「若者×ツナグバ」は、高齢化社会や格差社会が進む状況下で、青少年の最終ステージともいうべき「社会人になる直前の若者」「社会に出て間がない若者」が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援することを目的として、若者が地域社会のために行う非営利の活動を支援します。

(2) 募集内容

- ・対象地域：広島県・山口県
- ・対象団体：若者自身が企画し、社会貢献を行う団体。若者が5名以上の団体で、代表者も若者であること。
若者の定義は、2024年4月1日時点で満18歳以上30歳未満の人。
- ・支援期間：単年度支援 2024年4月1日～2025年3月31日の1年間
- ・支援金総額：60万円（30万円×2団体）
- ・募集期間：2023年10月14日～2024年1月15日

(3) 審査

- ・書面審査とプレゼン審査を行い、当事業の趣旨に合致した3団体を選出決定しました。

(4) 支援団体（大学生2団体）

- ① enjoy spielplatz 広島市東区 「遊んで学ぶ新しい居場所」（大学生と小学生との工作や運動を通じた交流）
- ② CROSS BUILD（くろすびど） 広島市安佐南区 「CROSS プロジェクト」（大学生と社会人の交流）

(5) フォローアップ

① 顔合わせ交流会と定期交流会（オンライン）

4月24日に、新メンバーと事務局による顔合わせ交流会を実施し、その後、イベント開催月を除き定期交流会を実施し、活動状況の共有や意見交換を行いました（6/12, 8/21, 10/30, 1/6）。毎回、各団体2～3名程度参加。

③ 第3回若ツナフェスタ（対面）

12月7日に広島市南区比治山で開催された「あつ“たまる”比治山2024」（主催：広島市他）に参加、2団体18名のメンバーが集結して、多世代の地域住民や他の出展団体と交流しました。2団体が協力して実施内容を企画し、各団体それぞれ得意なパートを受け持ちブース展開しました。

④ 第4回若ツナサミット（オンライン）

2月3日に今年度の各団体の成果報告会を兼ねた若者の意見交換会を実施しました。今回は今年度支援団体8名（enjoy spielplatz 2名、CROSS BUILD 6名）に加えアドバイザーやOG、若者を含む招待者や一般参加者にマツダ財団を加えた総勢30名が集いました。意見交換会では、「学生と社会人でちょっと話してみませんか？～いろいろな世代の人たちが集える場～」をテーマに活発な議論が行われました。

⑤ 成果報告（対面）

2月16日に市民団体や研究者との交流を目的に、今年度から、研究助成と市民活動支援合同の成果報告会への参加を開始しました。各団体から2名が参加し成果報告やポスターセッションを行いました。

Ⅱ－6．第41回講演会

(1) 内容

青少年健全育成事業の一環として講演会を実施しています。本年度は講師に旭化成株式会社名誉フェローの吉野 彰氏を迎え、「科学技術を通じて若者に希望を」と題して開催しました。

講演会当日は猛暑にも関わらず多くの方にご来場いただきました。今年度は「若い方にも来場いただきたい」と学校などに出向いてご紹介をしたことが功を奏したのか、20代以下の申し込みが26%と過去最高となりました。定刻を過ぎても質問を希望される方が多数おり、盛会のうちに終了することができました。

- ① 講 師： 吉野 彰 氏（旭化成株式会社名誉フェロー）
- ② 演 題： 科学技術を通じて若者に希望を
- ③ 開催期間： 2024年7月28日(日)
- ④ 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール
- ⑤ 聴講者数： 844名

II-7. 大学寄付講義の実施概要

マツダ財団の寄付講義は、これから必要とされる「柔らかな社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて、次世代を担う学生と共に考える「双方向」の講義を目指しています。その内「ボランティア」の講義は2000年度から一般社団法人教育ネットワーク中国のお力添えで、2年ごとに開講大学を替えながら「単位互換科目」として広く県内の大学生に受講していただいています。

■ 「ボランティア活動」

(1) 「ボランティア活動」本講義の目標と特色

本講義は、集中講義とボランティア実習を組み合わせた構成としています。まず、集中講義でボランティア活動に必要な基本的知識や方法を学び、その後、実際にボランティア活動を実践することで、活きた知識・方法を身につけ、自ら感動を体験してもらいたいと考えています。青少年健全育成に関する専門家やボランティア団体による分かりやすい集中講義とボランティア実習を伴うユニークな内容となっています。

(2) 「ボランティア活動」講義の概要

授業科目名「地域と社会」

日時：2024年5月18日(土)、5月25日(土)、9:10~16:20 (4コマ×2日間)

場所：広島文教大学

講師：大学教員2名、ボランティア団体5名、マツダ㈱1名、マツダ財団1名

(3) ボランティア実習

各自でボランティア実習先を探し、夏休みなどを利用して実施

実習の条件

- ・期間は5月26日~8月31日の間。
- ・実働30時間以上、あるいは2泊3日以上であること。
- ・小・中学生とのふれあいのあるボランティア活動。

(4) レポート提出と単位認定

ボランティア実習終了時にレポートを提出し、「集中講義の出席」、「ボランティア活動への参画」、「レポート」の3点により評価し単位認定する。

単位認定3名

■ 「ディベート演習」

社会人として活躍するために必要な一連のスキル（情報収集、分析、体系的にまとめて論じ相手から理解される）を身につけられるディベートを、自ら体験し醸成することを目的としています。

(1) 授業科目名「ディベート演習」

日時：2024年5月14日(火)~7月9日(火) (全8回)

場所：広島女学院大学

講師：マツダ財団1名

(2) 授業科目名「ディベート実践演習」

日時：2024年6月7日(金)~7月28日(金) (全8回)

場所：広島大学（統合生命科学研究科）

講師：大学教員1名、団体職員1名、マツダ財団1名

(3) 授業科目名「ディベート実践演習」

日時：2024年10月4日(金)~11月22日(金) (全8回)

場所：広島大学（先進理工系科学研究科）

講師：大学教員1名、団体職員1名、マツダ財団1名

Ⅲ. 管理事項の概要

Ⅰ. 役員等に関する事項

1. 2025年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理事長	代表理事	非常勤	菖蒲田 清孝	マツダ株式会社代表取締役会長
専務理事	代表理事	非常勤	吉 原 誠	マツダ株式会社専務執行役員
常務理事	業務執行理事	常 勤	大塚 宏 明	公益財団法人マツダ財団事務局長
理 事		非常勤	植 竹 良 子	公益財団法人広島市文化財団常務理事
理 事		非常勤	上 田 宗 岡	上田宗簡流家元
理 事		非常勤	大 下 浄 治	広島大学大学院先進理工系科学研究科教授
理 事		非常勤	岡 島 鉄 也	株式会社中国新聞社代表取締役社長
理 事		非常勤	平 谷 優 子	弁護士
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学名誉教授

(五十音順・敬称略)

監 事		非常勤	景 山 伸 彦	マツダ株式会社財務本部本部長
監 事		非常勤	高 橋 義 則	公認会計士

(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター相談役
評 議 員		非常勤	越 智 光 夫	広島大学学長
評 議 員		非常勤	金 井 誠 太	マツダ株式会社相談役
評 議 員		非常勤	信 夫 秀 紀	広島県環境県民局長
評 議 員		非常勤	高 田 輝 和	公益財団法人中国電力技術研究財団専務理事
評 議 員		非常勤	高 見 明 秀	マツダ株式会社技術研究所技監
評 議 員		非常勤	長 尾 ひろみ	瀬戸内グローバルアカデミー代表
評 議 員		非常勤	森 永 力	県立広島大学学長
評 議 員		非常勤	矢 吹 彰 広	広島大学工学部長
評 議 員		非常勤	山 川 肖 美	広島修道大学人文学部長
評 議 員		非常勤	山 田 陽 一	山口大学工学部長、大学院創成科学研究科長
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学名誉教授
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社名誉相談役

(五十音順・敬称略)

2. 役員等の異動状況

- ・漆原正浩氏は2024年6月21日に理事を退任し、植竹良子氏が2024年6月21日より理事に就任
- ・前田真二氏は2024年6月21日に監事を退任し、景山伸彦氏が2024年6月21日より監事に就任
- ・大杉節氏は2024年6月21日に評議員を退任し信夫秀紀氏が2024年6月21日より評議員に就任
- ・佐藤次郎氏は2024年6月21日に評議員を退任し山川肖美氏が2024年6月21日より評議員に就任

Ⅱ. 職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局 長	大塚 宏 明	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局統括 ・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・事業計画・財務・会計に関する事項
事務局 長代理	朝 野 千 明	
事務局 長代理	佐々木 寛滋	<ul style="list-style-type: none"> ・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項 ・事業計画・財務・会計に関する事項
事務局 長代理	本 郷 佳 加	
事務局 員	竹 岡 美 樹	<ul style="list-style-type: none"> ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・理事会、評議員会等の運営に関する事項

Ⅲ. 理事会・評議員会等、主な活動事項

(理事会)

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第60回理事会	2024年6月7日	第1号議案 2023年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案 理事候補1名推薦の件 第3号議案 監事候補1名推薦の件 第4号議案 第22回評議員会招集に関する件 [報告事項] 1) 2024年度科学技術振興関係事業助成の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第61回理事会	2024年6月21日	[報告事項] 1) 職務執行の状況 2) 公益法人の事業報告書等の提出書類	
第62回理事会 (決議の省略)	2024年8月28日	第1号議案 第40回(2024年度)科学技術振興及び 青少年健全育成研究助成対象決定の件 第2号議案 第41回(2025年度)青少年健全育成 市民活動支援計画決定の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第63回理事会	2025年3月14日	第1号議案 2025年度事業計画及び収支予算承認の件 第2号議案 第41回(2025年度)市民活動支援対象 (青少年健全育成関係)承認の件 第3号議案 選考委員13名選出の件 第4号議案 定款一部変更の件 第5号議案 評議員会決議省略の件 第6号議案 理事会運営規程一部変更の件 [報告事項] 1) 職務執行の状況(中期事業計画の一部変更を含む)	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(評議員会)

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第22回評議員会	2024年6月21日	第1号議案 2023年度決算承認の件 第2号議案 理事1名選任の件 第3号議案 監事1名専任の件 第3号議案 評議員2名選任の件 [報告事項] 1) 2023年度事業報告の件 2) 24中期事業計画の件 3) 2024年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第23回評議員会 (決議の省略)	2025年4月1日	議案 定款一部変更の件	原案どおり承認可決

(当年度の主な活動 一上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第40回科学技術振興関係マツダ事業助成の募集	2024年4月～5月	中国5県が対象
第40回マツダ研究助成(科学技術)の募集	2024年4月～5月	全国の研究者対象
第40回マツダ研究助成(青少年)の募集	2024年4月～6月	全国の研究者対象
第40回青少年健全育成市民活動支援贈呈式	2024年4月	4月12日広島、4月18日防府実開催
大学寄付講義(広島文教大学)	2024年5月～8月	集中講義およびボランティア実習
2024年度選考委員会(科学技術振興関係)	2024年8月1日	第40回マツダ研究助成候補の審議・選出
2024年度選考委員会(青少年健全育成関係)	2024年7月25日	第40回マツダ研究助成候補の審議・選出
第41回講演会	2024年7月28日	講師：吉野彰氏、演題：「科学技術を通じて若者に希望を」
感動塾・みちくさ	2024年8月	(公財)広島市文化財団と共催
先進サイエンスサロン	2024年11月2日	科学技術振興関係市民参加型公開講座
第3回若ツナフェスタ 開催	2024年12月7日	若者×ツナグバ2団体が集結
第40回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	2024年10月～2025年1月	科学技術振興関係/青少年健全育成関係
第41回青少年健全育成市民活動支援/第5回若者×ツナグバの募集	2024年10月～2025年1月	広島県、山口県対象
第4回若ツナサミット開催(オンライン)	2025年2月3日	成果報告会および若者の意見交換会
2024年度成果報告会	2025年2月16日	青少年関係研究者と市民団体の集い

2025年度選考委員会(青少年健全育成関係) 第5回若者×ツナグバ プレゼン審査	2025年2月17日 2025年3月8日	第41回市民活動支援候補の審議・選出 若者×ツナグバ支援対象の審議・選出
---	-------------------------	---

IV. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛先	申請等年月日	申請事項等
内閣総理大臣 (内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	2024年6月19日	事業報告等の提出
内閣総理大臣 (内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	2024年8月2日	理事変更の届出
内閣総理大臣 (内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	2025年3月29日	事業計画書等の提出

V. 登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局	2024年6月21日	漆原正浩氏 理事を退任
	2024年6月21日	植竹良子氏 理事に就任
	2024年6月21日	前田真二氏 監事を退任
	2024年6月21日	景山伸彦氏 監事に就任
	2024年6月21日	大杉節氏 評議員を退任
	2024年6月21日	信夫秀紀氏 評議員に就任
	2024年6月21日	佐藤次郎氏 評議員を退任
	2024年6月21日	山川肖美氏 評議員に就任
	2024年6月21日	評議員の変更登記

VI. 附属明細書

2024年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。